

おおやまこどうをさぐる え・ぶん・はいく

#4 大山古道を探る ー絵・文・俳句ー

作者：飯田九一（いいだ・くいち 1892-1970）

刊行：昭和40年（1965）

📖 解題

■ 内容

『大山古道を探るー絵・文・俳句ー』は、寒川神社から大山の登山口まで東導者の鶴田栄太郎、飯田九一をはじめとする俳人10人による絵と文と俳句による総合作品である。

第1集は昭和27年（1952）8月5日に神奈川県文庫より刊行されており、行程は藤沢市四谷から間門川まで、同行11人。文と俳句で充たされている。第2集は昭和29年（1954）7月25日に茅ヶ崎郷土史会より刊行されており、間門橋岬より一ノ宮景観寺まで、同行16人。文と短歌と俳句の総合作品である。本書はその第3集にあたる。

相模風土記に出てくる主要な大山道は、東海道から分かれる柏尾通り、田村通り、羽根尾通り、六本松通りの四道と、矢倉沢往来を利用する江戸からの青山通り、駿河須走からの蓑毛通り、北方武蔵府中からの府中通りと八王子方面からの八王子通りの八道である。本書、第3集は、このうち田村通りを取り上げ、名所史蹟を紹介している。

田村通りは、東海道藤沢宿から四谷、高田、一之宮より相模川の田村の渡しを経て、伊勢原から子易、大山へ至る道である。夏山登拝の際には江戸のお花講の人々が利用する道であったため、お花講道とも呼ばれていた。



[K291.64/25]

■ 作者

飯田九一は、明治25年(1892)橘樹郡大綱村北綱島(現横浜市港北区)に飯田助大夫(海山)の三男として生まれる。明治43年(1910)東京美術学校日本学科に学び、大正9年(1920)卒業。川合玉堂に師事し、正統派日本画の技を修める。昭和9年(1934)、俳画研究を志向し、香蘭会を主催し、俳画の普及を図った。草画洞はその号である。俳骨堂は大正期、鳩一巢は昭和期からの別号である。俳画集11冊、句集『寒雀』、『花蘇枋』、『無声泉』、『遺稿・釣魚句集』を残すほか、俳聖芭蕉翁の研究並びに遺品蒐集家として知られている。昭和28年(1953)横浜文化賞、同31年(1956)神奈川県文化賞を受賞。墓碑は横浜市港北区の本法寺にあり、一周忌に俳画塚が建立されている。

 参考文献

『神奈川の古道』阿部正道著 神奈川合同出版 1981 (かながわふるさとシリーズ⑨) [K68/134]

『神奈川県史 別編 1 人物』神奈川県県民部県史編集室 神奈川県 1983 [K21/16-4/1]

『江戸の娯楽と交流の道 厚木道・大山道・中原道 報告書』ふるさと歴史シンポジウム2005 [K68.62/19-1]

相沢雅雄「俳画家・飯田九一(一)」(『あかざ』no.43 あかざ発行所2008) [ZC/423]

『伊勢原市内の大山道と道標：再発見大山道調査報告書』再発見大山道調査団編 伊勢原市教育委員会 2011 [K68.64/12]